

# 情報化推進統合拠点の役割

香川大学のみならず地域の情報化やDX推進のための拠点として4月にスタート



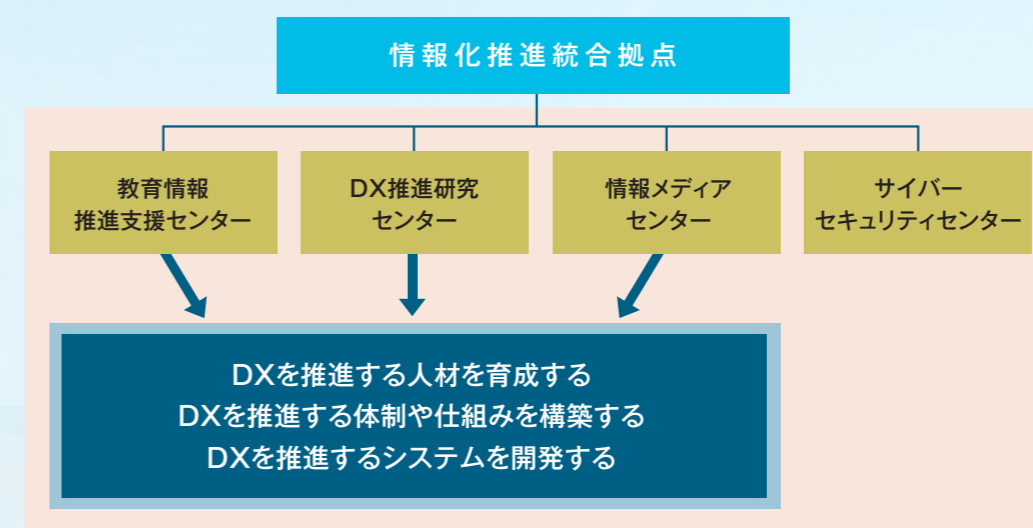
情報化推進統合拠点長  
香川大学創造工学部教授

## 林 敏浩 (はやし としひろ)

香川県東かがわ市出身。  
徳島大学大学院工学研究科博士後期課程修了。博士(工学)。  
佐賀大学理工学部助教授、香川大学総合情報センター教授を経て、2018年より創造工学部教授、2023年より情報化推進統合拠点長。  
専門は教育工学、四国学。

### 香川大学情報化推進統合拠点

—情報化推進統合拠点の組織と学内連携部局—



情報環境の守護者として  
組織再編で新たな高みへ

情報は、物質やエネルギーと並んで科学の進歩に不可欠なものです。物質やエネルギーと同じように情報の遍在と活用が「当たり前」となった今、教育・研究・運営を軸に学内の情報関連業務を統括し、あらゆる情報を扱いやすく整えるのが、情報化推進統合拠点の役割です。言わば「情報環境を守るガードマン」ですね。

旧情報メディアセンターが担ってきた役割を、4月から「教育情報推進支援センター」「DX推進研究センター」「情報メディアセンター」「サイバーセキュリティセンター」の4センターに整え直し、相互連携を深めました。DX推進研究センターは、単なる業務のデジタル化ではなく、物事の仕組み自体を見直すために情報の力を生かすことを目的としています。特にユニークなのは、ローコード・ノーコードプラットフォームを用いて学生が実際に大学で使われるシステムを開発しているところです。情報メディアセンターは学内情報基盤を担い、学内外

情報化推進統合拠点のHPはこちら



情報メディアセンター長  
DX推進研究センター長  
香川大学創造工学部教授

## 八重樫 理人 (やえがし りひと)

静岡県三島市出身。  
芝浦工業大学大学院工学研究科機械制御システム専攻博士後期課程修了。博士(工学)。  
豊田工業大学総合情報センターポスドクトラル研究員、芝浦工業大学システム工学部講師を経て、2020年より香川大学創造工学部教授、2021年より情報メディアセンター長。専門はソフトウェア工学、情報システム工学。



教育情報推進支援センター長  
香川大学創造工学部教授

## 藤本 憲市 (ふじもと けんいち)

徳島県徳島市出身。  
徳島大学大学院工学研究科システム工学専攻博士後期課程修了。博士(工学)。  
阿南工業高等専門学校助教授、徳島大学助手、エディンバラ大学客員研究員、徳島大学助教を経て、2022年より香川大学創造工学部教授、2023年より教育情報推進支援センター長。専門は数理工学、機械学習、医用工学。



サイバーセキュリティセンター長  
香川大学創造工学部教授

## 最所 圭三 (さいしょ けいぞう)

佐賀県鳥栖市出身。  
九州大学大学院工学研究科情報工学専攻修士課程修了。工学博士。  
九州大学総合情報伝達システム運用センター助教授、奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助教授、2000年より香川大学工学部教授を経て2018年より創造工学部教授、2023年よりサイバーセキュリティセンター長。専門は、インターネット応用、システムソフトウェア。

を繋ぐネットワークや基盤システムの維持管理が中心です。サイバーセキュリティセンターはセキュリティ強化を担います。教育情報推進支援センターは学生たちの学習情報を分析し、大学の教育力を向上させます。センターを4つに分けたことにより役割が明確化し、組織として何が必要かも少しずつ見えてきました。現在の課題は「大学内部に点在するさまざまな情報をいかに集約し分析するか」です。拠点の取り組みを通じて学内業務が効率化し、学内の情報の分析が進めば、空いたリソースを他の業務に充てることもできるはずで、効率化が進んで成果が見えるようになれば、当拠点の意義を感じてもらえると確信しています。

オフィスには教員・職員に加えて学生も同じフロアにいて連携が容易です。フリアドレス制を採用し、素敵な音楽が流れ、カフェスペースや多目的コモンスペース、集中ブースなども設置されました。教職学協働の先進事例として、今後の学内の情報化やDX推進に向けて取り組みたいと思います。

情報インフラを生かしてデジタル技術を用いた社会変革にチャレンジしたい

情報化推進統合拠点の土台には、積極的なeラーニング環境整備を進めてきた本学の歴史があります。香川大学は2008年から戦略的大学院連

## ここから、情報活用をリードする。

携支援事業としてeラーニングによる教育の共同実施に取り組み、「四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業」の基幹校も担当しました。現在、10,000人を越える履修者をかかえています。「知プラe科目」をはじめとするeラーニングのインフラとノウハウが既に確立していたおかげで、「コロナ禍でのオンライン授業などにもいち早く対応できました」。

情報化推進統合拠点は、コロナ禍やこれから起きるかもしれない南海トラフ地震など、さまざまな社会的ダメージにも耐え抜くための情報インフラを提供します。以前は学内に置いていたサーバーも外部(データセンターやクラウド)に移し、どんな災害にも耐えうる環境を整備しました。また、IT人材育成などにも取り組みます。当拠点や創造工学部で情報分野を専門とする教員が講師を務めます。次のステップとして、私たちは情報インフラを生かしてデジタル技術を用いた社会変革(DX・デジタルトランスフォーメーション)を考えなくてはならないと思っています。

「人間中心」の発想で  
技術を使いこなそう

私自身は情報工学が専門で、1980年代から「情報はこれからますます重要になるだろう」という実感を持っていました。特に興味を持ったのがeラーニングでした。当拠点が、

私が持つ情報工学の知識を生かして、eラーニングを支える幅広いテーマを追求できる場所になってくれることを期待しています。

日進月歩の技術を生かしたコトの効率化が進んでいますが、世の中の仕組み自体を見つめ直す視点を持つことが大事ではないでしょうか。テクノロジーを扱う時は、「人に寄り添い人間中心で考えているか」「本当の目的を達成するために何をすべきか」を考える視点を持つてほしいと思います。たとえば授業履修のためにキャンパス間の移動が不便だというなら、「連絡バスを増やす」のも一つの効率化ですが、「オンライン化してどこからでも授業履修できれば移動が不要になる」という考え方も生まれます。このような考え方は本学が取り組むデザイン思考教育においても重要なポイントであり、本学のDRI教育を通じて学生たちに身につけてほしい視点でもあります。

当拠点はさまざまな場面で「人間中心」の本質的な情報化のための取組を進めていきたいと思っています。これからの情報化推進統合拠点の活動に期待してください。

